

【第115回生涯教育講座】

島根県における医療安全文化醸成度
～エビデンスに基づく医療安全活動ひろ せ まさ ひろ
廣 瀬 昌 博^{1,2)}

キーワード：医療安全活動，医療の質，医療安全文化醸成度，肯定的回答率（Percent Positive Rate: PPR），Agency for Healthcare Research and Quality（AHRQ）

要 旨

島根県下20病院を対象に米国 AHRQ の日本版調査票により医療安全文化測定を実施した。調査票は、コミュニケーション、組織の取組・理解、教育・訓練、および報告の4領域、12因子、44項目、回答は5段階で、肯定的回答率（Percent Positive Response (PPR)）について、全国および米国調査と比較した。有効回答数は3,297、12因子の平均 PPR は51.7%で全国（51.1%）と同等であったが、米国（61.8%）と大差を認めた。それは、コミュニケーション領域5因子のうち3因子、組織の取り組み・理解領域5因子のうち4因子の PPR が40%前後であることに起因する。病院認定事業や Morbidity and Mortality Conference など質統治の優れた米国に比べ、島根県の医療安全文化醸成度は発展途上にある。本調査をエビデンスとして、効果的な医療安全活動を展開することが可能である。

はじめに

わが国においては、1999年の大学病院における手術患者取り違え事件により、本格的な医療安全（国際的には患者安全：patient safety）活動が開始された。その後、10年以上様々な医療安全対策が講じられてきたが、不幸にも2015年2大学病

院で特定の医師が長期にわたって実施した治療が原因で、多数の患者が死亡したことが報じられた¹⁻⁴⁾。

著者は、2002年京都大学医学部附属病院に安全管理室が設置される際、初代室長として就任した。それ以降、医療事故発生要因に関する研究を継続してきたが、医師に対するガバナンス組織と倫理教育システムの未整備も上記医療事故の要因の一つであると考えている^{5,6)}。

また、わが国では、医療安全活動に関する適切な評価方法や医療従事者の医療安全に対する意識

Masahiro HIROSE

1) 島根大学医学部地域医療政策学講座

2) 島根大学医学部附属病院病院医学教育センター

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部地域医療政策学講座